

# 経営比較分析表（令和元年度決算）

岐阜県 池田町

業種名	業種・事業名	管理者の情報	自己資本構成比率（％）
法非適用	電気事業	非設置	該当数値なし
水力発電所数	ごみ発電所数	風力発電所数	太陽光発電所数
1	-	-	-
その他発電所数	料金契約終了年月日	F I T 適用終了年月日	電力小売事業実施の有無
-	令和19年 3月20日 宮地発電所	令和19年 3月20日 宮地発電所	無
売電先	地産地消の見える化率（％）※1	-	-
中部電力パワーグリッド株式会社	-	-	-

※1 行政区域内の需要家に小売されたことが客観的に明らかであるものを計上。なお、この基本情報をもって全ての地産地消エネルギーへの取り組みを評価するものではない。

年間発電電力量（MWh）	H27	H28	H29	H30	R01
水力発電	-	-	-	187	185
ごみ発電	-	-	-	-	-
風力発電	-	-	-	-	-
太陽光発電	-	-	-	-	-
合計	-	-	-	187	185

年間電灯電力量収入（千円）	F I T 以外	F I T	合計
-	6,284	6,284	

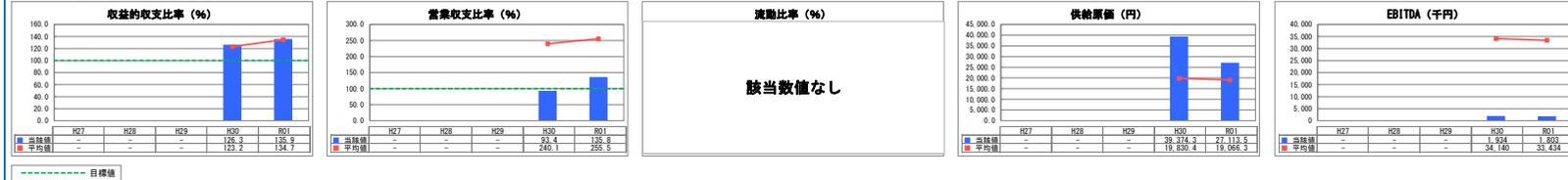
剰余金の使途について（具体的な使用実績事業を記入してください）

小水力発電事業により生じた利益は、将来の施設更新及び大規模修繕基金の積立及び農業集落排水事業への繰出金（処理施設の電気代）に充てている。  
 ・小水力発電事業基金積立金：1,094千円  
 ・農業集落排水事業特別会計への繰出金（処理施設の電気代）：709千円

## 分析値

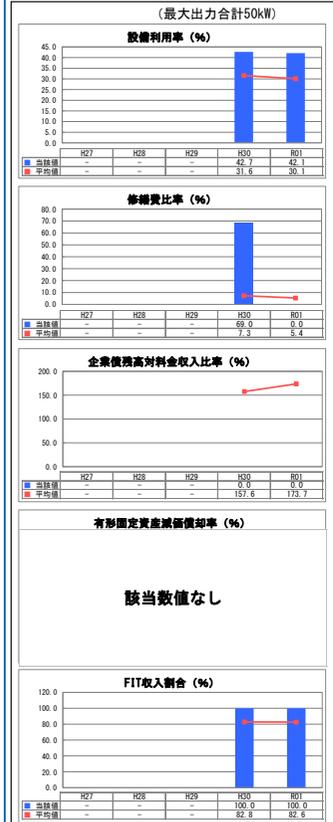
1. 経営の状況について  
 収益的収支比率は100%を上回り、収支は黒字である。営業収支比率においても100%を上回り、営業収支は黒字である。供給原価は平均値の約1.4倍であり、昨年度の約2倍の数値から改善された。要因として平成30年度は発電所が台風により被災し、多額の修繕費を発生したが、令和元年度においては修繕費が発生しなかったためである。また令和元年度では資産台帳作成の委託業務を行い、委託料の発生をしている。資産台帳の作成が完了したため、令和2年度以降は委託料等発生せず供給原価が改善されると考えられる。EBITDAについては平成30年度に比べ、令和元年度は収入が減少し、歳入に対する歳出の割合が増加しているため、EBITDAは減少しているが、数値の差は小さく経営改善の必要性はないと判断した。これらのことから、経営の健全性は確保されている。

## 1. 経営の状況

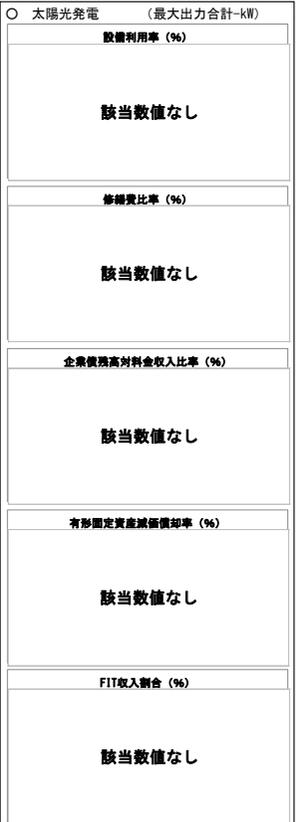
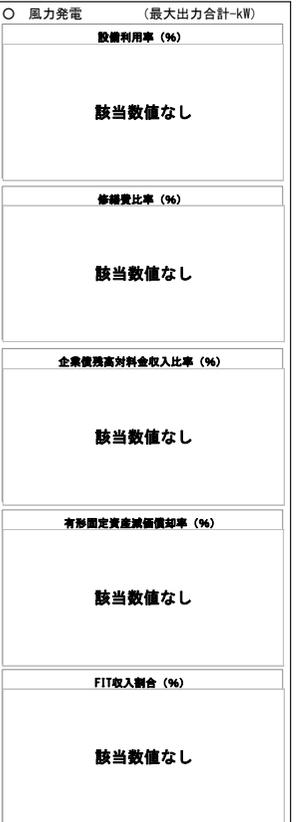
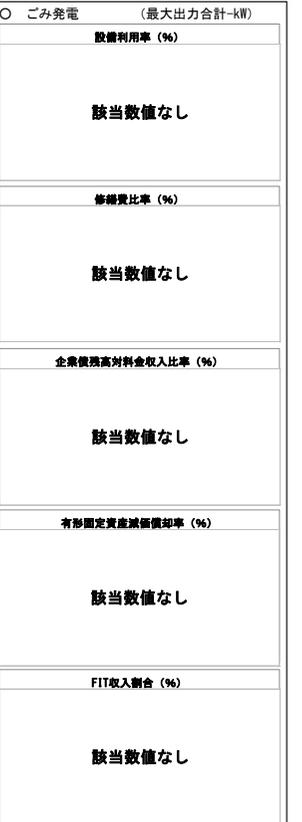


## 2. 経営のリスク

### ●施設全体



### ○発電型式別



### 2. 経営のリスクについて

設備利用率は42.7%で、発電型式別設備利用率の平均値である60.4%を下回っている。これについては天候等の環境的要因が考えられる。修繕費比率は0%であり、発電所施設の老朽化による修繕も無く、台風による被災等も発生しなかった。

### 全体総括

現状においてEBITDAを除いた数値については、上昇しており経営の健全性は確保されている。令和2年度策定予定である経営戦略により、更に効率的な発電を行う。

※ 平成27年度から令和元年度における各指標の全国平均値は、当時の国体数に基づいて算出していますが、設備利用率及び修繕費比率、企業債務高対科金収入比率、FIT収入割合については、令和元年度の国体数に基づいて算出しています。